

令和7年度 学校評価についてのまとめ

1 成果

- (1) 岩舟地区小中一貫教育において重点項目の共通理解を図った。本年度、新たに「相手を傷つけない言葉遣い」を追加。
- (2) 昨年度より、評価方法をForms一本化としている。
- (3) 教職員、児童、保護者において、昨年度の肯定的な意見を上回る項目が多い。
- (4) 評価項目「1 学校は楽しい」「2 学級の友達となかよし」「5 相手を傷つけない言葉遣い」「10 交通ルールを守る」「13 基礎基本の定着」「14 いじめのない学校づくり」「16 事故防止・安全教育」「17 情報の発信」「18 相談しやすい環境づくり」「19 ボランティアとの活動」について、3者とも評価が高い。
- (5) 「7 家庭学習への取組」については、教職員が昨年度に比べ、12.5ポイント、保護者が23.2ポイント上昇した。岩舟地区全体で重点として取り組んでいる成果といえる。
- (6) 学校運営協議会の評価委員会において、活発な協議をすることができた。

2 課題

- (1) 「正しい姿勢（立腰）」については、岩舟地区全体で取り組んでいるところであるため、教職員、児童、保護者の評価は、昨年度に比べ、目立って上昇している。とはいえ、保護者においては、評価項目中、一番低い値、58.9%となっている。
- (2) 3者とも評価は低いのは、「20 メディア視聴時間」である。
- (3) 「8 学習道具の準備」においては3者とも昨年度よりも評価が下回った。

3 成果と課題を踏まえた今後の取組

- (1) 今回、教職員で、昨年度よりも大きく評価が上回った2項目「6 話を聞く態度」「13 基礎基本の定着」については、何が要因で値が上がったのか、また値が下がった「8 学習道具の準備」においては、どのような手立てが必要か教職員で話し合った。
- (2) 今後もPTAや地域、岩舟地区全体で更なる連携を図り、児童の発達段階に応じた指導・支援に努める。
- (3) 充実した学校行事と教職員の働き方改革を意識した特色ある学校づくりを推進する。